

水辺空間を活かしたまちづくり ～番田河原の利活用と地域の連携等～

福岡県 田川市
特定非営利活動法人 風治さつきの会 / 田川市

1 社会資本の概要

福岡県田川市伊田にある番田河原は、一級河川遠賀川水系彦山川中流部の田川市中心部市街に位置し、福岡県を代表する祭りである「風治八幡宮川渡し神幸祭」において、神輿や山笠が豪快に水しぶきを上げて川を渡る祭典のクライマックスを迎える場所です。



祭典のクライマックスを迎える番田河原
(一級河川遠賀川水系彦山川中流部)

近年では、親水性向上のため潜り橋や階段護岸等が整備され、堤防の整備では、地域の総鎮守である風治八幡宮の石の手すりのデザインを採用し、地元で産出される純白の石灰石「寒水石」などを混ぜ、風合いのある石壁のような外観に仕上げるなど、地域を代表する祭りのイメージを醸しています。



風治八幡宮の石の手すりのデザインを採用した堤防

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

田川市は、炭鉱で栄えた頃の人口11万人が現在では5万人を割り込み、市全体としての活気が失われており、川筋気質と呼ばれる荒い気性から地域には負のイメージが付きまわっており、地域のイメージアップが必要との思いから、当団体は「風治八幡宮川渡し神幸祭」を中心としたまちづくりによる地域活性化を目指しています。

神幸祭が更に活性化するように神幸祭を運営する各団体の調整・橋渡しの役割を担い、神幸祭全体を盛り上げる取組だけではなく、番田河原周辺の河

川環境の改善、地域住民、小学生への環境啓発活動、地域の伝統文化勉強会の実施及び河川・通学路の清掃活動により地域のイメージアップに活発に取り組んでいます。番田河原周辺の水質浄化活動では、彦山川上流域の荒廃森林の侵入竹を利用して、流域住民同士が連携を図りながら、伐採、炭焼して竹炭を製作し、番田河原に投入しています。環境啓発活動としては、地域の小学校4年生等100名が、小学校の空き教室を利活用して鮭の卵を孵化させ100日間飼育した後、番田河原において放流しています。



神幸祭のクライマックスである
川渡し神事



小学校の空き教室を利活用して
鮭を飼育

3 活動の成果や波及効果等

河川環境改善の活動については、当初15名程度で実施していたものが、現在では竹伐りから、炭焼き、竹炭の投入までに延べ140人の参加者があるなど、関心が高まっています。地域伝統文化勉強会は、参加者の約2割が地域外に居住している方であり活動が地域外にも広がっています。河川や通学路の清掃では、地域の小学生をはじめ地域にある福岡県立大学の方も参加するようになりました。

これらの活動を通じ、地域のイメージアップが図られてきており、神幸祭自体の集客としては、平成27年以降、それまで10万人程度だったものが、20万人以上もの来場者数になりました。



竹炭投入による水質向上や環境啓発活動



地域伝統文化勉強会



河川の清掃活動

喜びの声



受賞者

特定非営利活動法人 風治さつきの会
理事長 宇都宮 誠

コメント

歴史ある本賞を受賞することで、住民の目が地域の母なる川「彦山川」に向けられ、河川環境啓発意識の向上や地域の誇りを取り戻すきっかけとなり、神幸祭を中心とした地域活性化の起爆剤になることを期待しています。

活動内容

- ・流域住民連携による荒廃森林の里山整備
- ・地域住民と連携し河川環境啓発の実施
- ・地域伝統文化勉強会の実施
- ・児童と地域、NPOの連携による事業実施

活動の経緯

- 昭和50年 みこしをかつぐ会設立
- 平成26年 法人設立(12月24日)
- 平成29年 神幸祭に2度目の県知事来場

所在地

福岡県田川市伊田魚町・番田町・川端町

活動主体及び連絡先

特定非営利活動法人 風治さつきの会
(0947-42-1135)

対象となる社会資本

遠賀川水系彦山川(番田河原)
※管理者:国土交通省
九州地方整備局 遠賀川河川事務所



手づくり郷土賞

グランプリ 2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

手づくり郷土賞

グランプリ 2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編